

事業所名 グループホーム いつもえがおで
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年12月30日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、介護老人福祉施設(9年)
B:現職 介護保険施設勤務
資格・経験 介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

ホームは、玄関を中心にして中庭を2ユニットの建物が囲むような形で建てられている。建物内は、認知症の方の行動や視線などを研究し、落ち着いて生活できる構造になっており、入居者がくつろげるような工夫があちらこちらに見られる。代表者の医療や福祉・介護に対する考えが人間的で温かく、それは法人内の会議や研修等を通して職員にも浸透しており、入居者との毎日のかかわり方に活かされている。

母体が病院である点を生かして支援しており、医療が必要になった場合も安心して生活できる。入居者や家族の希望があれば、終末期もホームで過ごす事が可能で、今までも、医療との連携を図りながら最後まで支え続けた方が何名かおられる。

法人内での研修が多い点も評価できる。他にも、各種委員会活動が活発に行われており、職員は自発的に知識や技術の向上を目指している。また、ケアサポート制度を取り入れたり運動クラブを作るなど、職員のストレスを軽減し、親睦を図る取り組みも行っている。

宇野線の備前片岡駅から徒歩2分、車であればファーマーズマーケットの風車と塔が良い目印になり、分かりやすく便利な立地である。窓からの眺めも、線路を挟んですぐの所に住宅地や山が見えて四季の移ろいが感じられる。反対側は一面の田園風景が広がり、その中にファーマーズマーケットの建物があり、のどかで落ち着いた環境である。

特に改善の余地があると思われる点(記述)
特に改善点としてはない。

管理者・職員・入居者が共に信頼し、良い関係ができていると感じた。また、職員一人ひとりがとても素晴らしい信条を持って入居者と接しており、毎日が楽しいと言っていたのが印象に残った。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>認知症が進行しても、その人らしく最後まで尊厳のある暮らしが営めるように、できない事に対してはそっと手を差し伸べる形で支援し、残された力で暮らしの喜びと自信を取り戻せるようにと考えている。</p> <p>家庭的な雰囲気や安心感に包まれた自然な空間を大切に、入居者には常に尊敬の念を持ち、様々な事を教えていただくという姿勢を忘れずに接していきたいと思っている。</p> <p>入居者・家族・職員が信頼関係に満ちたより良い関係が築けるように、全職員で努力している。</p> <p>病気のために忘れてしまう事も多いが、その日その日をできるだけ楽しく生活し、いっぱい思い出を作れたらと考えている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>建物は、認知症の方が落ち着いて生活できるように、動線や入居者の視線を考えた構造になっている。廊下の中間や端の方にゆとりスペースを設け、1人でも、また友人とも自由にくつろげる場所が確保できている。</p> <p>代表者は、入居者を含めた周りの人(家族も職員も)皆が満足しなければ本当の満足ではないという考えで法人の運営を行っている。入居者については、ケアプランの見直しを3ヵ月毎に行い、きめ細かく配慮の行き届いたサービスを提供し、家族に対しては連絡を密に取って信頼関係を築き、職員には学習の機会とストレスの軽減を図る取り組みを行っている。</p> <p>職員の対応は穏やかでとてもやさしく、職員も一緒に心から楽しむ事で入居者の笑顔も引き出されている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者一人ひとりの歴史を大切に、現在できる事は積極的にしてもらっている。自分でできる事を楽しみながら行うことで自信を取り戻され、とても落ち着かれるそうである。</p> <p>居室には、中から鍵が掛けられるようになっており、入居者のプライバシーの保護に役立っている。夜間の見回り時には、合鍵で職員が戸を開けるという許可を取り、安心して寝てもらえるようにしている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>法人内での研修の機会が多く、講話・実技・発表を含めると週1回のペースで行われている。研修委員会により、1年間のスケジュールが組まれ、職員に周知するように貼り出してあり、介護・医療など多岐にわたって勉強ができる。グループホームの症例研究として、発表をすることもある。</p> <p>2ユニットの中心に玄関があり、旋回していないため、職員が気づかないうちに外出した入居者がおられ、対策としてセンサーのチャイムが鳴ったら必ず両ユニットの職員が玄関まで行き、確認をするようにしており、問題発生を改善の良い契機として捉え、次へと繋げている。また、問題発生時には、その都度話し合いを行い、職員の都合ではなく、入居者の立場に立って原因や改善策を考えている。</p>		